

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.4
Q1 室内環境									3.0
1 音環境				2.6	0.15	-	-		2.6
1.1	室内騒音レベル	-		3.0	0.40	3.0	-		
1.2	遮音			3.0	0.40	-	-		
1	開口部遮音性能	-		3.0	0.60	3.0	-		
2	界壁遮音性能	-		3.0	0.40	3.0	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-		1.0	-	3.0	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-		3.0	-	3.0	-		
1.3	吸音	-		1.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-		3.0
2.1	室温制御			3.0	0.50	-	-		
1	室温	-		3.0	0.38	3.0	-		
2	外皮性能	-		3.0	0.25	3.0	-		
3	ゾーン別制御性	-		3.0	0.38	-	-		
2.2	湿度制御	-		3.0	0.20	3.0	-		
2.3	空調方式	-		3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				2.6	0.25	-	-		2.6
3.1	昼光利用			1.8	0.30	-	-		
1	昼光率	-		1.0	0.60	3.0	-		
2	方位別開口	-		-	-	3.0	-		
3	昼光利用設備	-		3.0	0.40	3.0	-		
3.2	グレア対策			3.0	0.30	-	-		
1	昼光制御	-		3.0	1.00	3.0	-		
3.3	照度	-		3.0	0.15	3.0	-		
3.4	照明制御	-		3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				3.9	0.25	-	-		3.9
4.1	発生源対策			5.0	0.50	-	-		
1	化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面に採用		5.0	1.00	3.0	-		
4.2	換気			2.6	0.30	-	-		
1	換気量	-		3.0	0.33	3.0	-		
2	自然換気性能	-		1.0	0.33	3.0	-		
3	取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口は、排気口と6m以上離れて設置		4.0	0.33	3.0	-		
4.3	運用管理			3.0	0.20	-	-		
1	CO ₂ の監視	-		3.0	0.50	-	-		
2	喫煙の制御	-		3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.9
1 機能性				3.7	0.40	-	-		3.7
1.1	機能性・使いやすさ			2.6	0.40	-	-		
1	広さ・収納性	-		3.0	0.33	3.0	-		
2	高度情報通信設備対応	-		2.0	0.33	3.0	-		
3	バリアフリー計画	-		3.0	0.33	-	-		
1.2	心理性・快適性			5.0	0.30	-	-		
1	広さ感・景観	天井高2.9m以上		5.0	0.33	3.0	-		
2	リフレッシュスペース	1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機の設置		5.0	0.33	-	-		
3	内装計画	デザインコンセプトに沿った内装計画		5.0	0.33	3.0	-		
1.3	維持管理			4.0	0.30	-	-		
1	維持管理に配慮した設計	①風除室の壁はケイカル板 ②トイレの床は塩ビシート ⑤風除室の扉の距離は3.42m ⑥床は異なる床材を混在させない ⑦外壁はカーカルパニウム鋼板 ⑧水切りを設置 ⑩外部の金属部には錆止め塗料塗りを施す ⑫大便器、小便器は壁掛け式を採用 ⑬縦軸回転窓		5.0	0.50	-	-		
2	維持管理用機能の確保	-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.0	0.30	-	-		4.0
2.1	耐震・免震・制震・制振			4.6	0.50	-	-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	建物全体に制振装置(アンボンドブレース)を導入している		5.0	0.80	-	-		
2	免震・制震・制振性能	-		3.0	0.20	-	-		
2.2	部品・部材の耐用年数			3.3	0.30	-	-		
1	躯体材料の耐用年数	-		3.0	0.20	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	-		2.0	0.20	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-		3.0	0.10	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外ダクトはガルバリウム鋼板を採用		4.0	0.10	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP(B)、排水:VP(B)、通気:VP(A)、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔	-		3.0	0.20	-	-		
2.4	信頼性			4.0	0.20	-	-		
1	空調・換気設備	-		3.0	0.20	-	-		
2	給排水・衛生設備	節水型便器、緊急時汚水貯留槽、緊急用水栓を設置		4.0	0.20	-	-		
3	電気設備	非常用発電機他		4.0	0.20	-	-		
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA		4.0	0.20	-	-		
5	通信・情報設備	衛生電話設備、Wi-Fi設備他		5.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	0.1未満	5.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	倉庫:15000N/m ² 、事務所:3000N/m ²	4.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.4	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	構造部及び仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	構造部及び仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.35	-	-	3.3
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	1)海老名の自然環境に調和する計画としている 2)低中木中心の緑化計画としている 5)隣接する公園、広場に連続する緑地を計画 6)ハネルのランダム配置によるボリューム感軽減	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.8
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.72	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI _m =0.21	3.7	0.50	-	-	3.7
	集合住宅以外の評価		3.7	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	効率的運用		4.0	0.20	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	自動制御監視設備にて集中管理	4.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	年間エネルギーの消費量管理機能	4.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.5
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	自動水栓、擬音装置を採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.6	0.60	-	-	3.6
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	外構路盤材に再生クラッシュラン、ビニル床シートにフロアリウムを使用	4.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材(LGS+PB)が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	接着剤(床・壁)	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.9
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO ₂ 排出率46%	5.0	0.33	-	-	5.0
2	地域環境への配慮		3.6	0.33	-	-	3.6
	2.1 大気汚染防止	電気温水器を採用	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	広場地下に雨水貯留槽を設置	4.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	適切な量の駐輪場、駐車場を配置	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		○	○	-		○	○	○	○	-	○		○	○
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-					○	○			○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		○	-	-	○	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	-	-	○	○	-							
2.4.5 通信・情報設備	4.0		○	○	○	○	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	-	-	1.0	1.0							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-						
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	1.0	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	3.0		○	○	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	-	-	3.0	2.0	3.0	-	1.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 -
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 3 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 1.8% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 6.6 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 5.9%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 15000 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 34% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 46% 水平投影面積率 7% 地表面対策面積率 19% 舗装面積率 31%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.72 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 - 太陽光 1,106.8kW 太陽熱等 - 蓄電池 -
3 設備システムの高効率化 非住宅部分 集合住宅の評価	BEI/BEI _m 再エネ有 0.21 無 0.53 オフサイト再エネ有 - - 一次エネ削減率 再エネ有 無 - -
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 再生クラッシュラン エコマーク商品 フロアリュウム 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 105% 隣棟間隔指標Rw 2.51 地表面対策面積率 30.0% 屋根面対策面積率 100.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 2,360㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 102.66 m 基準高さHb 21.85 m 緑地 1,757㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 10,065㎡ 再帰性反射対策面 ㎡